

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's 広場

関連リンク

資料室



HOME | 資料室 | 一般教養 | 資本論 | 資本論 (2)

労働組合

労働者福祉・共済

一般教養

社会保障

労使トラブル法律相談Q&A

労働関係法

経営全般

人間関係とコミュニケーション

ライフプラン

男女共同参画

公務員関係法

日朝の歴史

7つの習慣

中東の歴史

ボランティア活動

環境活動

社会貢献活動

自己啓発

生涯学習

外交・防衛問題

資本論

教育カリキュラム

日本国憲法

資本論 (2)

資本論の3つのエッセンス

- 1 「価値」と「使用価値」
- 2 「剰余価値」
- 3 「剰余価値」が減っていくこと

まずは、「価値」と「使用価値」について。
商品の値段はどのように決まってくるのだろうか？

「資本論」ではこのように説明している。

①商品には「価値」と「使用価値」がある
マルクスは、取引をするものは「すべて商品である」とした。
たとえ石や水であっても取引されるものであれば商品だ。
いっぽうで石や水でも「商品」にならないものもある。
それが「価値」と「使用価値」だ。

「価値」と「使用価値」を持っていれば、そのモノは商品になり、持っていなければ商品にはならない。
では、その「価値」とは？「使用価値」とは？

「使用価値」とは、使って感じる価値という意味で、それを「使うメリット」のこととした。

「価値」とは、資本論のなかでは、「労力の大きさ」という意味で使われる。

ある商品の「価値」の大きさは、その商品にぎ込まれた「人間の労働の量」によって決まるとした。

②需要と供給のバランスがとれている場合、商品の値段は「価値」通りに決まる

商品には「価値」と「使用価値」がある。

これらふたつの要素がそろって、初めて売り物になる。

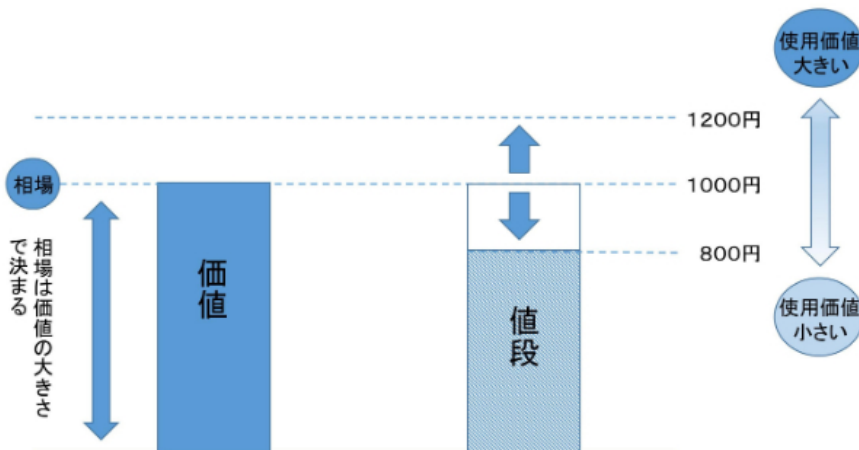
ただし、商品の値段を決めているのは「価値」であるとマルクスは考えた。

消費者は「価値」をベースに妥当な値段を考えているのだが、その妥当性を「社会平均」で決めるとした。

そして、価格の相場を決めるのは「価値」であるが、そこから価格を上下させるのが「使用価値」であるとした。

使用価値が高いものは、より多くの客が欲しがらるから、需要が高まり、結果的に値段が相場よりも高くなるのである。

反対に、使用価値の低いものは、価値よりも安くしないと売れないということになる。



商品には価値と使用価値の両方が必要

傾聴

語り部スキル

🔍 キーワード検索はこちら

(つづく)

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録
お申し込みはこちらです。

>>一覧へ戻る

🔍 サイトマップ 🔍 このサイトについて 🔍 個人情報保護の取組みについて

🔍 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.